

令和8年産 二条大麦の栽培しおり

(品種名：はるか二条)

◎適期播種・適期防除(赤かび病防除は必須)・適期収穫に努めましょう

発行：香川県農業協同組合
監修：東讃農業改良普及センター

1.作業の要点 栽培履歴を必ず記載し、収穫の10日前までに提出しましょう

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
排水対策 (ほ場の乾田化)	耕起	播種	排水溝の設置	麦踏み・土入れ			刈取り	乾燥調製
	雑草防除 (播種前)	種子 消毒	雑草防除 (初期)	土入れ 雑草防除 (中 期)	追肥・土入れ	赤かび病 アブラムシ防除		
(溝あげ) ・稲刈後のフタを浅く鋤き込 み(3〜5cm)排水溝を設ける。 ・稲刈後のフタを浅く鋤き込 み(3〜5cm)排水溝を設ける。	(雑草) ・除草剤を散布する。 (消毒) ・伝染病対策として種子粉衣 ・種子更新を毎年行い、種子 ・除草剤を散布する。 (播種) ・条間17〜20cm、播種深3cm とする。(トリル播)	(除草) ・果が高い。また、かけムラな ・発生前までに散布する方が効 ・初期除草剤は、播種後から雑草 とする。(トリル播)	(麦踏み) ・節間伸長期前(1月下旬)まで ・に土壌が乾いた状態で麦踏み ・を行う。 (土入れ) ・排水溝の補修も兼ねて土入れ ・を行う。 (雑草) ・除草剤は露がなくなつてから ・散布する。 (追肥・土入れ) ・追肥後に土入れを行うと効果が高い。 ・二月中〜下旬に追肥。			(防除) ・アブラムシ類の発生初期に ・防除する。 (必須防除) ・その7〜10日後に行う。 (出穂12〜14日後)と ・赤かび病の防除は、約穀抽末期 ・防除する。	(刈取り) ・25%以下になった頃が適期であ ・る。 ・コンバインの刈取りは穀粒水分が ・の種が混ざらないようにする。 ・ラを抜き取り、異種麦や草 ・(カラスノエンドウとヤエムグラ ・刈取り前に必ず異種麦や雑草	(乾燥) ・調製後は吸湿防止を特に心掛 ・ける。 ・乾燥後はなるべく早く調製し、 ・高温・急速乾燥は絶対にしない。 ・や品質が低下するので注意する。 ・収穫が遅れると収穫ロスの増加 ・で速やかに収穫する。 ・収穫適期は3〜4日間と短い
排水溝の事例 (播種直後) 30〜35cm 15〜20cm ロータリー幅			やくから 二条大麦の約穀抽出始め	収穫適期の穂				
						刈取適期目安 出穂後の目安 47日前後 刈取適期の目安 水分含量25%以下	乾燥・調製の目安 仕上り水分 13.0%以下 ふるい目 2.5mm以上	
						乾燥方法(循環式乾燥機による) 生麦の水分 30%以下の場合 30%を超える場合 張込量 容量の70% 容量の60% 乾燥機型式 乾燥温度は機種の取扱書の指示に従う。 (高温型は50℃、低温型は45℃内外を目安とする。)		

2.生育の目安

播 種 期	節間伸長期開始期	出 穂 期	開 花 期	成 熟 期
11月25日	3月3日	3月30日	4月11日	5月16日

3.播 種

(種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう)

播 種 適 期	播 種 量 (kg/10a)
11月20日〜12月5日	ドリル播 7〜8 全面全層播 13〜15

・播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、倒伏や凍霜害のおそれがある。
・播種適期より遅い播種は、収量・品質が低下するおそれがある。
・播種早延11月15日。

4.栽培のポイント

①排水対策

播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタプルカルチやサブソイラー、弾丸暗きよを施工する

播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15〜20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する

②土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6〜6.5を目安とする)

③適切な肥培管理

適正な施肥量と適期の追肥

1月に葉の黄化がみられた場合に追肥(5.肥培管理参照)

④雑草の体系防除

播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底

⑤病害虫の防除

赤かび病の適期(約穀抽出始めとその7〜10日後の2回)防除

⑥収穫の適正化

適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止

排水対策の例



赤かび病



・開花期〜乳熟期に高温多雨になると発生しやすい。
・農産物検査規格で、0.0%以上の被害粒が確認されると規格外となるため、必須で防除する必要があります。
(写真:小麦)

5.肥培管理(土壌改良資材や堆肥を施用し、土づくりに努めましょう)

①施肥基準

肥 料 名	全 量	基 肥	追 肥 (2中〜下)	成 分 窒素 リン酸 カリ
いすれか 硫 加 燐 安 4 0 2 (期 日 B B 4 8 8) (P K セ ー プ エ コ 4 8 8)	80	55	25	11.2 8.0 9.6 11.2 6.4 6.4 11.2 6.4 6.4
土 壌 改 良 資 材	60〜100	60〜100		

注1)ほ場の地力、麦の生育状況等により、施肥量は加減する。
注2)1月に葉の黄化がみられた場合、追肥を10kg施用し、残り15kgを2月中旬から2月下旬に施用する。
注3)()内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に、土壌診断を実施する。

②基肥一発施肥体系(水はけの良いほ場)

肥 料 名	全 量	基 肥	成 分 窒素 リン酸 カリ
二条大麦専用肥料(18・8・8)	60	60	10.8 4.8 4.8
土 壌 改 良 資 材	60〜100	60〜100	

注1)水はけの悪いほ場では使用しない。
注2)12月中旬以降の播種では使用しない。
注3)低PK肥料のため5年を目途に土壌診断を実施する。

▼土壌改良資材の一覧表

肥 料 名	ケイ酸	苦 土	アルカリ分	鉄 分
いすれか 粒 状 ユーキ鉄ケイカル	23	4	34	15
麦 楽	10	5	51	0
粒 状 苦 土 石 灰	0	15	53	0

注)前年にpHの低下による酸性障害がでているほ場には、苦土石灰を100〜150kg/10a程度施用する。
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

6.防除管理(農薬の飛散防止に努めましょう)

①種子消毒

病害虫名	薬 剤	希釈倍数等	使用時期/回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレートT水和剤20 ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	播種前/1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	

注)薬剤はいすれかを使用する。

②病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬 剤	希釈倍数等	使用時期/回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病 ※必須防除	約穀抽出期(出穂12〜14日後) (1回目防除) 1回目防除の7〜10日後	ワークアップフロアブル	2,000〜3,000倍	収穫7日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(33.3〜50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は令和7年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるため、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用する。

◎麦収穫後は鳥獣害対策、雑草・害虫対策、土づくり対策のため速やかに耕起しましょう!

③雑草防除

区分	薬 剤	対象雑草名	使用時期／回数	10a当たり 使用量	散布方法・注意事項等	作業日
非選択性除草剤 (麦も枯れるので注意)	ブリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後 出芽前／4回以内	600～ 1,000mℓ	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎 葉全体に均一にかかるように散布する。	
	ザクサ液剤	一年生雑草	耕起または播種前 (雑草生育期)／1回	300～ 500mℓ	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎 葉全体に均一にかかるように散布する。	
	ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草及び 多年生イネ科雑 草	耕起前または播種後 出芽前(雑草生育期) ／3回以内	200～ 500mℓ	(通常散布) 10a当たり50～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 (少量散布) 専用ノズル等で散布する。	
初期除草	ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～発生始期) ／2回以内	400～ 500mℓ	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬 量を所定の範囲内で多めにする。 ノミノフスマには効果が劣る。	
	リベレーター フロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)／1回	60mℓ	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 播種深度が浅い場合は葉害を生ずる場合がある ので使用しない。	
	リベレーターG	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イ ネ科雑草1葉期 まで)／1回	4～5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬 量を所定の範囲内で多めにする。 土壌表面が過乾燥の場合は、効果が劣る。	
	ハーモニーDF	一年生広葉雑草 及びスズメノテ ッポウ	麦3葉期～節間伸長期 (スズメノテッポウ5 葉期まで)／1回	5～10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布 する。 器具を使用後、速やかに消石灰水500倍液でよ く洗浄する。	
中期除草	エコパート フロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長期開始期まで (一年生広葉雑草 2～4葉期) (ただし、収穫45日前 まで)／2回以内	50～ 100mℓ	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 散布後、軽微な白斑・褐斑を生じることがあるが その後の生育・収量に影響はない。	
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 (イネ科を除く)	生育期但し 収穫90日前まで ／1回	100～ 200mℓ	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で 散布する。 イネ科雑草には効果がなく、イネ科雑草が混在す る場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 「はだか麦・大麦」は、使用時期が「収穫90日前 まで」のため、散布時期に注意する。	
注1)	MCPソーダ塩	一年生及び 多年生広葉雑草	幼穂形成期但し、 収穫45日前まで ／1回	200～ 300g	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で 散布する。 分げつ抑制作用があるため、莖数が十分確保され てから散布する。 暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が高い。	

注1)早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないように、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

●各雑草に対する中期除草剤の効果

除草剤・雑草名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ
ハーモニーDF	○	△	○ 注2)	△
エコパートフロアブル	○	△	—	△
バサグラン液剤	○	△	—	○
MCPソーダ塩	△	○	—	△

注1)○:効く △:多少は効く —:登録なし 注2)SU抵抗性スズメノテッポウに対しては効果が劣るため、非選択性除草剤と土壌処理剤(初期)、土入れなどの体系処理を行う。

●主要畑地雑草

種 名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	ノミノフスマ	スズメノカタビラ	カスノコグサ
草 姿						
防 除 の ポイント	中期除草剤による防除	収穫前に必ず抜取	初期除草剤と中期除草剤の体系防除	中期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤の体系防除

作成：2025年8月

排水対策を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう!

よづくりのため、麦わらは焼かずにすき込みましょう!